

Q.(標準問題精講Ⅲ 例題 15)

解説の補助をお願いします。

A.

ポイント：「3回進めばもとのベクトルと同じ向きに並行で長さが a^3 倍のベクトル」(精講より)に着目。

$\overrightarrow{A_0A_1}$ と $\overrightarrow{A_{3k}A_{3k+1}}$ は同じ向きのベクトル、 $\overrightarrow{A_1A_2}$ と $\overrightarrow{A_{3k+1}A_{3k+2}}$ は同じ向きのベクトル、 $\overrightarrow{A_2A_3}$ と $\overrightarrow{A_{3k+2}A_{3k+3}}$ は同じ向きのベクトルであるがそれぞれ、ベクトルの向きが異なるので3つに場合分けして考えなければならない。

そこで3つに場合分けして、 $3n$ まで足したものが $\overrightarrow{OA_{3n}}$ となる。

よって、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \overrightarrow{OA_{3n}} = \sum_{n=0}^{\infty} a^{3n} (\overrightarrow{A_0A_1} + \overrightarrow{A_1A_2} + \overrightarrow{A_2A_3})$ と言い換えることができる。

$\overrightarrow{A_0A_1}$ 、 $\overrightarrow{A_1A_2}$ 、 $\overrightarrow{A_2A_3}$ はそれぞれ求められるので $\overrightarrow{A_0A_1} + \overrightarrow{A_1A_2} + \overrightarrow{A_2A_3}$ は計算可能。

また、 $\sum_{n=0}^{\infty} a^{3n}$ は、公比 a^3 の ∞ 等比級数から、公式 $\sum_{n=1}^{\infty} ar^{n-1} = \frac{a}{1-r}$ (ただし、 $a \neq 0$ かつ $|r| < 1$)に代入して求められる。

いま、 $\overrightarrow{OA_{3n}}$ までしか考えていないが、はじめに3つに場合分けしているので $\overrightarrow{OA_{3n+1}}$ 、 $\overrightarrow{OA_{3n+2}}$ までの極限も同様に調べる必要がある。

各々調べると $\overrightarrow{OA_{3n}}$ 、 $\overrightarrow{OA_{3n+1}}$ 、 $\overrightarrow{OA_{3n+2}}$ 極限は一致することがわかるので、解答のように極限の座標を求めることができる。